



【夏休みの図書室について】^{なつやす としよしつ} 児童のみなさんと保護者の方へ^{じどう ほごしゃ かた}

^{ことし なつやす かかん}
今年の夏休みは4日間あいています！

^ひ日にち：7月22日（月）、23日（火）、

^{がつ にち きん にち げつ}
8月23日（金）、26日（月）

^{じかん ごぜん じ し}
時間：午前9時～11時まで（午後は開いていません）

～おねがい～

- ・^{としよしつ く とき}図書室に来る時はお家の人に伝えてから来ましょう。
- ・^{つうがく とお}通学路を通って、北門（給食室の横）から入りましょう。
^{ほか もん}（他の門はしまっています）
- ・^{つうがく とお}通学する時は、ぼうしをかぶってきてください。
- ・^{うわぐつ}うわぐつをわすれずに持ってきてください。
- ・^{あつ}暑い日が続くので、水とうを持ってきてください。^{としよしつ なか}図書室の中でお茶
^{をのんでもらっていいです。本がよごれないように気をつけてのみま}
^{しょう。}しょう。
- ・^{としよしつ ほん}図書室では、本のかし出、返きやく、よやく、読書ができます。
^{だし}かし出できるのは4さつまでです。
- ・^{としよしつ じかん}図書室にいる時間は1時間までにしましょう。
- ・^{なつやす まえ}夏休み前と、7月23日（火）までにかりた本は、^{がつ にち か}8月27日（火）
^{がつ にち きん}～8月30日（金）の間に返しましょう。
- ・^{がつ にち きん}8月23日（金）と、^{がつ にち げつ}8月26日（月）にかりた本は、^{ほん}2週間後まで
^{かえ}に返しましょう。

やわたしりつやわたしょうがっこうとしよしつ
八幡市立八幡小学校図書室

ほんのおたより

^{ねんせい}（1年生～^{ねんせいよう}3年生用）

^{れいわ ねん}令和6年7月5日^{がつ か なつごう}夏号



なつやす よ 夏休みに読んでみて



もうすぐ楽しい夏休みが始まりますね。長い夏休みの間に、いつもより長いお話の本や、調べる本をかりてみるのはいかがでしょうか？そこで、今回の図書室だよりでは、夏休みに読むのにピッタリな本を紹介しします。気になる本があったら、ぜひかりに来てくださいね。

えほん『ぼくらのひみつきち』

といよしひこ/文・絵 ^{ぶん え}出版ワークス ^{しゅっぱん}



からだいっぱい夏を感じよう

^{まち}町からいなかひっこしてきたケイタが、^{むし}虫とりあみでセミをつかまえていると、^{おとこ}男の子二人組に^{こふたりぐみ}声をかけられました。^{おとこ}男の子たちは、クワガタがいるひみつきちを知っているというので、ケイタもついていくことにしました。

ひみつきちまでは遠くて、あせをかきながら、^{やまみち}山道を^{すす}進み、^{かわ}川をおよぎ、^き木を^{のぼ}登り…、まるでぼうけんをしているようでした。そして、たどりついたひみつきちとは、^{ばしょ}どんな場所だったのでしょうか？

^{なつ}夏の^{たいよう}太陽や、^{にゅうどう}入道ぐも、^{みどり}緑いっぱいの山、^{やま ひかり}光がユラユラゆれる水の中、^{みず}こん^{なか}虫の^{ちゅう}なく^{こえ}声と、^{なつ}夏の^し自ぜんをたっぷりと感じることができえるえほんです



えほん『みちとなつ』 すぎた ひろみ さく ふくいんかんしよてん
杉田比呂美／作 福音館書店



ともだちになるきっかけは…

はなれた町にすんでいる女の子のみちとなつ。みちは、大きな町にすみ、大きな学校に通っています。なつは、海べの小さな町にすみ、小さな学校に通っています。本を読むのがすきなみちと、走りまわるのがすきななつ。二人は、まだ名前も知らず、出会ったことはありません。

ある日、そんな二人が海で出会い、友だちになるのです。二人が友だちになったきっかけは、二人ともがすきなあることでした。すんでいる場所も、せいかくも、全くちがう二人ですが、すきなことが同じだと、なかよくなれるようですね。

今年の夏休みは、みなさんにも、みちとなつのようなすてきな出会いがあるといいですね。

ものがたり『はじめてのキャンプ』 はやし あきこ さく ふくいんかんしよてん
林 明子／作 福音館書店

夏休みにキャンプにちょうせん！

なほちゃんは、おとなりに住むともこおばさんが、大きい子たちとキャンプに行くことを知って、「わたしも行く!」と言います。でも、大きい子たちから、「ちっちゃい子はだめ!」と、言われてしまいます。それでも、「重いにもつを持って歩けるし、ぜったいになかない!ごはんをたくまきだって集められるし、暗くなってもこわがらない!」と言いはります。その言葉を聞いて、ともこおばさんは、なほちゃんもキャンプにつれて行くことを決めました。

なほちゃんは、言葉どおり、本当に一生けんめいががんばりました。重いにもつを持って歩くことも、まきを集めることも、夜に一人でトイレに行くこともできましたよ。

はんごうでごはんをたいて、川でひやしたすいかを食べて、キャンプファイヤーをして、花火をして、きれいな星空を見上げて、大きい子たちといっしょに、なほちゃんもキャンプを楽しむことができました。

キャンプに行って、なほちゃんは、ちょっぴり大きくなったようですよ。

はじめてのキャンプ



林明子 絵

しょくひん 食品『かき氷』 ごおり ほしままさよ さく い じ ち えいしん ぶん いわさきしよてん
細島雅代／作 伊地知英信／文 岩崎書店



し ちから ごおり 自ぜんの力をつかったかき氷

あつ なつ ごおり た ひと おお
暑い夏に、かき氷を食べたくなる人も多いのではないのでしょうか？
さいたまけん ながとろ ねんいじょう まえ めいじじだい ふゆ あいだ いけ
埼玉県の長瀬では、100年以上も前の明治時代から、冬の間に池で
ごおり 氷をつくって、なつ 夏までほぞんしています。これを天ねん氷と言います。
てん ごおり て ま ごおり い がつ いけ
天ねん氷は、とても手間ひまをかけてつくられています。11月に池に
みず い さむ ひ ごおり はじ きおん ど さ ごおり にち
水を入れて、寒い日がつづく氷がうすくはり始めます。気温が0℃より下がると、氷は1日5
ミリメートル ずつつぶあつくなっていきます。こうして、氷が15cmになるのを待ちます。

そして、氷ができると、長さをはかって、のこぎりで氷を切っていきます。切った氷は、氷室という氷をほぞんしておくそうこで、夏までおいておきます。

この本を読むと、きっとかき氷を1口ずつ味わって食べたくになりますよ。

ものがたり『生まれかわりのポオ』 もり え と さく カシワイ/絵 金の星社

いのち めぐる命のものがたり

9才の男の子ルイが生まれた時から、ずっといっしょにすごしてきたネコのポオ。白い体のせなかにある黒いハートマークがとくちょうのネコでした。

でも、ポオは、年をとってきて、おじいちゃんになり、体がやせて、とうとうなくなってしまいました。ママから、「ルイ。生きものには、それぞれ、神様からもらった時間があるんだよ。」と、言われて、かくごはしていたルイですが、悲しくて、ずっとなみだが止まりませんでした。そして、「ポオに会いたい。」ただそれだけを思っていました。

そこで、物語を書く仕事をしているママは、『生まれかわりのポオ』という物語を作って、読んで聞かせてくれました。

この物語を読むと、きっと、ポオは新しい命をもらって、どこかで元気にすごしているのかな?と、思えるようになりますよ。そして、全ての生きものを大切にしたいと思えるのではないのでしょうか？ あいするペットとのわかれの受け止め方にそっとよりそってくれるやさしいものがたりです。

